

スポーツ観とスポーツの変化：バスケットボールへの身長制の導入の可能性を主要事例として
The change of sport value consciousness: as an example of the possibility of adopting the
height standard in Basketball

1K07B115-2

指導教員 主査 志々田文明先生

瑞慶村 昂平

副査 倉石平先生

【はじめに】

近代競技スポーツは、勝利を第一義の目的としている。ただ、どこまで勝利を追求するかというのは、プレーする人間によって異なっている。例えば、大学体育会やプロリーグの選手等は勝利のためにスポーツをプレーしている。一方で、レクリエーション的に楽しむ人々にとって勝利はいわばスパイスで、スポーツを楽しんだ結果としての産物と捉えていると思う。近代競技スポーツをする人々が勝利に対してどこまで価値をおくか、つまりはどのような「面白さ」を求めるかは（守能，1984）、時代によってその人数の割合が変化するのではないかという考えがある。それに合わせてスポーツが変わる、すなわちスポーツのルールが変わるのではないかと思う。

「時代における勝利に対する面白さの違い」と、それに伴う「スポーツの変化」は何か。筆者はこうした点に興味を持った。本研究では、時代によって変わるスポーツ観と、そのスポーツ観に応じたスポーツの変化の二点について、「バスケットボールへの身長制の導入の可能性を探る」という問題を通して考えていきたい。

本研究は先行研究を調査して考察する文献研究である。考察に際しては、筆者自身がバスケットボールをプレーしてきた経験を通して思う所を述べていきたい。

【第一章】

第一章では、バスケットボールの創案から普及までを概観した。身体鍛練を目的とした体操から、よりレクリエーション的な意味合いが強いバスケットボールへと嗜好は変化していく。J・ネイスミスによって創案されたバスケットボールは、多くのルール改正を経て、YMCA、そしてアメリカの大学を中心として、世界へ広まっていった。オリンピックにも採用されたバスケットボールは、近代競技スポーツの代表的な一つである。

【第二章】

第二章では、スポーツを行う目的の変化を追った。スポーツのルールが変わるということは、そこに何らかの理由が存在する。近代競技スポーツが、社会の変化に合わせて、前近代スポーツから変化してきたように、近代競技スポーツもまた変化するのである。ニュースポーツの台頭から、勝利追求という近代競技スポーツの論理を捨てた、スポーツそれ自体を楽しむという新しいスポーツ観を見ることができる。その新しいスポーツ観は、ルールを変えることで、近代競技スポーツであるバスケットボールにも適用できるのではないか。

【第三章】

第三章では、バスケットボールに身長制を導入するにあたり考えなければならぬ、ルールの平等という点について考察している。現状において身長差は乗り越えることが可能である不平等であると考えられている。ただ、これからの時代、スポーツの目的が勝敗を重視せず、過程を楽しむことを重視しようという＜風潮＞になっている時代には、その不平等を改めて考え直し、それに伴うルール改正というものは行われてしかるべきではないか。スポーツにおける平等な条件というのは、その時代のスポーツ観に応じたルールによって規定された適切な不平等のもとでの競争をいうのだと考える。

【まとめ】

スポーツ観が変化するのに合わせて、スポーツのルールも変わっていく。バスケットボールが体操に代わる、新しいスポーツ観に対応した種目として創案されたように、バスケットボール自身も新たな種目にとって代わられるのか。それとも、ルールの改変で、新しいスポーツ観に対応するのか。バスケットボールの身長制導入を試してみる価値はありそうだ。